

# さまざまな現場体験・現地調査を通して建築の設計を考える

工学部 建築学科

竹内 泰 研究室 (TAKEUCHI Yasushi Laboratory)

本研究室は「建築設計」の研究室です。建築設計といえば、一つの敷地に与えられた与件や機能を満たす建築を設計することを思い浮かべるとは思いますし、そのような役割も確かに求められます。しかし、われわれのアプローチは、その役割に加え、建築と周辺環境や社会、その仕組みなどとの関連を見出し、そこに建築のデザインの可能性を見いだしていこうとします。そのため現地調査や現状分析は欠かすことができません。過去から未来へ、周辺に馴染み、よりよい環境を形成する建築をめざします。



## 学生へのメッセージ

建築は、人々の生活に最も身近な空間を創り出し、考える学問です。人々の生活に最も身近な学問であるため、人々をとりまく社会とのかかわりも広く深い学問ともいえます。

皆さんが、建築を志望する際、まずは住宅を設計したい、建物をデザインしたいなどが動機としてあるかもしれませんが、しかし、いざ大学で建築を学びはじめると、その学ぶべきことの幅広さに、驚き戸惑うかもしれません。同時に、建築を学ぶにつれ、これまで想像していなかった新しい興味や可能性にも出会うことができるはずで、そして、普段見る建築のすべてが、多様な人々のかかわりによりできあがり、人々の努力の結晶としてあることを知るに違いありません。皆さんが建築を学びそして社会に旅立つとき、建築の重要な役割の一つを担う専門家に成長していることを共にイメージし、学んでいきましょう。



インドネシアでのまちなみ調査



京都町家リノベーション事例見学



関西での大学間合同設計演習提案作品



陸前地域のスレート民家調査ミーティング

## 学生の声



さとう しんたろう  
佐藤 真太郎

工学部 建築学科 4年

現在、私が所属している竹内泰研究室では、ゼミの活動のほかにもさまざまなプロジェクトが同時に進行しており、日々それらのプロジェクトに勉強しながら、そこから得た知識や経験を建築の設計に生かしています。

私はインドネシアでの現地大学生とのワークショップや、関西の大学を中心とした横断的な合同設計演習に参加しました。国内外を問わず他大学の学生の考え方や設計手法、分析方法などを知り、また互いの違いも知ることができました。今後の卒業設計などに向けた良い刺激となっています。



いとう りょうすけ  
伊藤 諒佑

工学部 建築学科 4年

私は、竹内泰研究室に入ってさまざまなプロジェクトに関わることができました。例えば、安全安心生活デザイン学科と合同の陸前地域のスレート民家調査、関西12大学による都市・建築に関する合同演習などです。これらの経験を通して、具体的な調査の重要性や必要性を知り、作業を通じて自身の建築設計が格段にレベルアップしたと感じています。10月からは、台湾・中原大学に短期留学する予定です。卒業設計に向け、台湾でいろんな知識を吸収し、自身最後の設計を悔いなく最良の成果へと上げたいと思っています。



すぎもと ゆうま  
杉本 裕磨

工学部 建築学科 4年

私は竹内泰研究室において商店街の再生や路地再生、都市問題について研究しています。現在、都市ではショッピングモールや超高層ビルなど巨大資本がシャッター商店街などを生み、人々の生活を変化させています。私は、人々がより幸せに生活できる街はないか考えたいと思っています。分からないことも多いですが、竹内先生や研究室のメンバーと協力し、卒業設計に向け日々頑張っています。私たちの研究室は、互いに成長し合える研究室です。